



上峰町立上峰中学校だより

ちんぜい

No.2

発行日：令和8年5月18日

発行者（文責）：校長 永田康子

学校教育目標：心豊かに たくましく生きる生徒の育成 -自ら考え、判断し、行動する中学校生活を通して-
生徒会スローガン：オリジナル～全員の個性が輝く学校へ～

新年度が始まり1か月余りが過ぎました。校内では、生徒たちの落ち着いた学校生活の中にも、前向きに取り組む姿が随所に見られ、頼もしさを感じています。特に感心するのは、日々のボランティア活動です。朝の時間に校内の清掃に取り組む生徒、困っている仲間になaturally声をかける姿、新入生が安心して登校できるように早朝から駐輪場で案内をする生徒会役員の姿など、自分にできることを考え、行動に移す姿が確実に広がっています。

そのような中、体育大会に向けた練習も始まりました。仲間と力を合わせ、一つの目標に向かって取り組む経験は、生徒たちを大きく成長させます。今後も、生徒たちのこのような前向きな姿を大切に見取り、認め、広げていきたいと思ひます。

ボランティア活動について

朝、校門付近や玄関を掃除している生徒たちの姿を見かけたことがある保護者の方もいらっしゃるかもしれません。本校では、毎朝自主的にボランティア清掃に取り組んでいる生徒たちがいます。今回は、その活動を続けている3年生の上津原陽彩さん、八谷陽菜さん、松尾宥愛さんの三人にインタビューを行いました。

まず、「なぜ毎朝続けているのですか？」という質問に対して、「続けないときれいにならないから」「自分たちが過ごしている学校に貢献したいから」「一日のはじめにきれいにしたら、みんなが安全に過ごせるから」と答えてくれました。ただ掃除をしているのではなく、「自分たちの学校を自分たちでよりよくしたい」という思いが、その言葉から伝わってきました。また、「やってよかったと思うときは？」という質問には、「感謝してもらえるとき」「朝早く起きるのは大変だけど、みんなに気持ちよく過ごしてもらえると感じたとき」と話してくれました。誰かに言われたからではなく、自分たちで考え、行動し、その中で喜びややりがいを感じていることがよく分かります。さらに、「この活動を通して学校をどのような場所にしたいですか？」と尋ねると、「みんなの心が落ち着く場所」「笑顔が絶えない場所」「みんなが楽しく過ごせる場所」と答えてくれました。掃除という活動の先に、「学校で過ごすみんなの姿」を思い描いているところに、生徒たちの優しさや温かさを感じます。

最後に、これからボランティアをやってみたい人へのメッセージとして、「今すぐやってね!」「ちょっと勇気を出してやってみたら、自分も一日のスタートが気持ち良いし、周りからも感謝されて、いいことがたくさんあるよ!」と笑顔で話してくれました。

誰かのために行動することは、実は自分自身の心も豊かにしてくれます。このような生徒たちの日々の積み重ねが、上峰中学校の温かな雰囲気や心の安心安全につながっているのだと改めて感じました。これからも、生徒たち一人一人の「やってみよう」という思いを大切にしながら、みんなが安心して過ごせる学校づくりを進めていきたいと思ひます。



いつもありがとうございます!

家庭訪問・二者面談

新年度当初のご多用の中、一年生の家庭訪問、並びに2年生・3年生の二者面談にご協力いただき、誠にありがとうございました。保護者の皆様のご理解とご協力に、心より感謝申し上げます。

1年生の家庭訪問では、ご家庭での様子やこれまでの成長の歩みを直接うかがうことができました。学校では

見えにくい一面や、お子様が安心して過ごせる環境について知ることができ、今後の指導や支援の大切な手がかりとなりました。中学校生活のスタートにあたり、学校と家庭が同じ方向を向いて子どもたちを支えていくための貴重な機会となりました。また、2年生・3年生の二者面談では、学校での様子や学習状況をお伝えするとともに、生徒一人一人のこれからの目標や課題について共有することができました。

学校教育は、学校だけで完結するものではなく、ご家庭との連携の中でより大きな力を発揮します。今回いただいた貴重なお話やご意見を今後の教育活動に生かしながら、お子様一人一人の成長を支えてまいります。引き続き、本校の教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

授業参観（ふれあい道徳）

毎年最初の授業参観において、担任または学年担当の教員が「道徳」の授業を公開しています。学校で学ぶ教科には、それぞれ大切な役割があります。その中でも道徳は、単に「何が正しいか」を教える時間ではなく、「自分はどう生きるか」「相手とどう関わるか」を生徒自身が考える時間です。そして、答えが一つではない問いについて、自分自身の考えを持ち、仲間の考えに触れながら、自分の心と向き合っていきます。

中学生の時期は、心も身体も大きく成長する時期です。嬉しいこともあれば、悩むこともあります。友人関係に迷ったり、自分らしさについて考えたり、時には失敗を経験したりしながら、少しずつ「自分」という存在を形づくっていきます。道徳の授業には、学級の雰囲気や教師と生徒との関係性がよく表れます。友達の意見を最後まで聞く姿勢。自分の考えを勇気を出して話そうとする姿。うまく言葉にできなくても、一生懸命考えている姿。そうした一つ一つに、生徒たちの「今」が表れています。授業参観は、単に授業の様子を見る機会ではなく、生徒たちがどのような仲間と学び、どのような教師と関わりながら成長しているのかを感じていただく機会でもあります。5月9日（土）の「ふれあい道徳」での生徒たちの姿はいかがだったでしょうか。

2年生学年競技実行委員にインタビュー

体育大会に向けた準備が本格的に始まっています。今年度の体育大会の目標は「個性あふれる体育大会」です。各学年でも、生徒たち自身が「どのような体育大会にしたいのか」を考えながら準備を進めています。

先日、2年生の学年種目実行委員の石田武杜さんと下田結想さんに、学年種目に決めた思いを聞きました。2年生の学年種目は「ボールリレー」に決定しました。実行委員会で話し合いを重ねながら決めたそうです。石田さんと下田さんは、その理由について、「この競技は戦略が大切だから」と話してくれました。ボールリレーは、ただ走るだけではなく、「どのような順番にするか」「どのような方法でつなぐか」など、クラスで知恵を出し合い、協力しながら取り組む必要がある競技です。そのため、一つの目標に向かってクラスみんなで力を合わせやすいと考えたそうです。また、学年種目を考える際には、「みんなで協力できること」「見ている人も盛り上げられること」「時間や費用がかかりすぎないこと」「みんなにとってルールがわかりやすいこと」を大切にしたいと話してくれました。

私は、この言葉に大きな成長を感じました。単に「自分たちがやりたいこと」を考えるだけでなく、周りの人のことや学校全体のことまで視野に入れて考えているからです。まさに、自分たちで考え、判断し、行動しようとする姿そのものだと感じました。

さらに、二人は「2年生になって少し大人になり、静かに落ち着いた場面が増えてきた」と自分たちの変化を分析した上で、「だからこそ、この競技を通して、夢中になって楽しむことを思い出したい」「笑顔があふれる学年になりたい」と話してくれました。落ち着くことも成長です。しかし、仲間と本気で笑い合ったり、全力で挑戦したりすることも、中学校生活の大切な学びです。体育大会は、勝ち負けだけではなく、仲間と心を合わせ、一つのことを創り上げていく過程そのものに価値があります。当日、2年生がどのような表情で競技に取り組むのか、今からとても楽しみです。保護者の皆様も、温かく見守っていただければ幸いです。